

<p>する力の育成を図る。以下は代表的実践内容</p> <p>5月 富樫幸一教授（岐阜大学）講演会 1年生 6月 川瀬真弓助教（岐阜大学）講演会 2年生 9月 吉田大作准教授（京都芸術大） オンライン講演会 2年生 10月 フィールドワーク1年：岐阜市内 11月 岐阜大学院生との懇談会 2年生 2月 2年英語プレゼンテーションコンテスト 1年FRHポスターセッション</p>		
<p>11 成 果 ・ 課 題</p>	<p>○オンライン授業の計画・準備・実行 ○生徒の授業アンケートにおける高い得点率（全職員の評価の平均で5点満点中4.44点など） ○英語によるコミュニケーション能力の向上 ○地域共創フラッグシップハイスクール事業の取組における、課題発見能力・プレゼンテーション能力の向上およびフィールドワークによる地域の観光と産業の魅力発見 ○ICT機器の積極的利用 ○到達度別少人数授業の実施（個に応じた学習体制の構築） ▲授業研究の充実 ▲各種アセスメントを活用した学力定着度や学習習慣等の分析及び分析結果の活用 ▲HPを利用した積極的な発信</p>	<p>総 合 評 価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種アセスメントを活用するなど、教科指導方法等を研究する。 ・地域共創フラッグシップハイスクール事業について、教科横断的探究活動に関しても研究を深める。 ・教員の指導力向上を目指し、授業アンケートの方法、研究授業、公開授業のあり方（時期や報告方法など）を改善する。 ・ICTを有効的活用するため、研修会を実施し相互に高め合う。 ・「ワードプレス」を利用してHPを制作し、発信方法も改善する。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月4日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10項目5段階評価のアンケート（平均全体4.44「わかりやすい授業」4.55）について、評価指標に対する評価基準が示されていないため評価しにくい。 ・徳育（挨拶、身だしなみ、時間厳守、環境整備等）について、生徒アンケート及び保護者アンケートで評価しているが、客観的に評価するべきである。 ・授業評価を含め、先生が日々尽力している取組において高い評価となるものがあるのではないかと。 ・中学校と比較して学習進度が速いため、生徒の躓きを見逃さないよう一人一人に目が届く授業を望んでいる。ICT機器を活用した授業や地域共創といった取組は引き続き注目したい。・緊急時のオンライン学習支援の対応に感謝。 ・ICT機器の活用が必然となった一年であった。タブレットの配布など素早い対応に感謝している。 ・ICT活用による学習支援が学習理解につながっていると回答した生徒割合が、他の項目より相対的に低いのではないかと。（69%）その原因の検証が必要と考える。

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書<進路指導部>

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「開拓者の気魄で勉学とスポーツにあたり 礼儀正しくあれ」のもと文武両道を目指し、確かな学力と豊かな人間性を備えた生徒を育成する。 (1)《知育》自ら課題を見つけ、よりよく問題を解決する力を発揮できる生徒 (2)《徳育》社会生活を営む上での礼節をわきまえ、他を思いやる豊かな心をもつ生徒 (3)《体育》健康の保持増進に努め、たくましく生き抜く力を備えた生徒	
2 評価する領域・分野	◇ 進路指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・コロナ禍の影響があり、進路講演会などを例年のように実施することができなかったため、オンラインによる配信を行った。保護者および生徒の2項目ともに、昨年度より高い評価となったと考える。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇良識のある社会人として活躍するための望ましい道徳観や勤労観を養い、進路目標を明確に持てるよう努める。 ◇文武両道の校訓のもと、進路目標が実現できるよう学習習慣を確立し、特に家庭学習を充実させて学力向上に繋がるよう努める。 ◇生徒一人一人が進路目標を実現できるように進路目標の充実と提供に努める。 ◇国公立大学現役合格100名以上を目標とする。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部を中心に各学年会との連携を密にし、各項目に関連した分掌や教科会等の協力を得ながら、共通理解を図り実践していく。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①明確な進学目標を設定しその実現を目指す。 ②部活動で培った「やり抜く力」を背景に、充実した進路指導体制を構築する。	①国公立大学現役合格者数 100名。 ②平日、土曜日及び長期休業中の補習、個別指導等について生徒アンケートと進路実績で評価する。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・「進路の手引き」と定期的な「進路だより」の発行、前期と後期の進路アンケートの実施 ・放課後補習、土曜活用講座、長期休業中補習実施 ・希望者校外模擬試験の積極的な案内 ・生徒の活動の記録として実施していた「MYNOTEBOOK」の名称を、昨年度より「キャリアパスポート」と変更して継続実施 ・進路講演会などをオンライン配信により実施	・進路意識が高揚したか。 ・進路決定のきっかけや判断材料となったか。 ・新たに導入した手立てが有効活用されたか。	A B C D A B C D A B C D
11 成果・課題	○特に、3年生の補習授業を前期から充実させた。なお、8月下旬に予定していた夏季特別補習は、コロナ禍のため実施できなかったため、10月の日曜日に150分の3コマの時間割で4日間の補講することができた。また、冬季特別補習は、150分の3コマまたは共通テストの時間割で10日間行った。 ○外部講師による小論文指導職員研修会を行い、小論文指導の観点などを教師が学ぶことができ、指導力向上につながった。 ○国公立大学共通テスト無と有の学校推薦型選抜の申出期間を、昨年度変更した10月と11月とする予定であったが、大学により出願期間が大きく異なるため、全て10月に統一した。中期的な指導計画を考える上で、有効であった。 ○国公立大学の共通テスト無学校推薦型および総合型選抜合格者は、20名(9クラス)であった。【昨年29名(9クラス)ー昨年17名(9クラス)3年前19名(10クラス)4年前6名(10クラス)】全校体制による小論文や面接の個別指導の成果が見られた。 ○外部講師による保護者向けおよび生徒向け進路講演会や進路説明会をオンライン配信で行うことができた。 ○英語の外部検定試験G-TEC検定版を、英語科と連携し外部模擬試験と同様な形	
		総合評価 A B C D

	<p>態で実施することができた。 ○進路アンケートやキャリアパスポートにより、生徒の内省を促すとともに教師の生徒理解に繋がり、懇談などに生かすことができた。</p>	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学の総合型・学校推薦型選抜入試については、積極的な受験を引き続き本校の学校の方針としたい。熱心に部活動に参加する生徒が多く、英語の外部検定試験の資格取得者が多いという本校の現状を生かしたい。 ・コロナの収束が予想できないことも勘案し、大学の学問分野などの講義動画を生徒が視聴することができる外部ツールの活用を考えたい。 ・全校体制による小論文と面接指導の充実のため、今年度と同様に、転入者説明会において得意分野調査を継続して行うとともに、該当教科科目の大学入学共通テストと大学入試センター試験の過去3か年分の解答および得点率7～8割となる指導方法についての研究を依頼する。 ・外部講師による小論文指導研修会および面接指導研修会を行い、より教師の指導力向上を目指す。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月4日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学実績に関して、入学時の成績から3年後までを見通し、どのようにして学力向上を図るかが重要。 ・「国公立大学現役合格100名以上を目標とする。」とあるが、これまでの実績137名⇒143名⇒145名と合格者が増加しているため、目標設定値の見直しが必要と考える。 ・1、2年生の早い段階において、卒業生(大学生)による交流会や大学による模擬講義等は具体的な進路決定に有効と考えるため、前向きに導入を検討いただきたい。 ・国公立合格者数を目標値としつつ、卒業生が大学に進学した後のミスマッチが無いよう進路選択するまでに、生徒が望む将来像に近づけられるよう情報提供や相談できる機会を望む。 ・担任、進路指導の先生との面談を何度も繰り返し、安心して受験を迎えることができている。進学後の目標などを踏まえた進路相談内容となっており、目標自体が明確に持てるようになっている。

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書<生徒指導部>

岐阜県立長良高等学校

学校番号	3
------	---

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>日々の教育活動を通じて、校訓の実現を目指す</p> <p>【校訓】 開拓者の気魄で 勉学とスポーツにあたり 礼儀正しくあれ</p> <p>【めざす生徒像】</p> <p>《知育》自ら課題を見付け、よりよく問題を解決する力を発揮できる生徒</p> <p>《徳育》社会生活を営む上での礼節をわきまえ、他を思いやる豊かな心をもつ生徒</p> <p>《体育》健康の保持増進に努め、たくましく生き抜く力を備えた生徒</p>
----------	---

2 評価する領域・分野	生徒指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や身だしなみ指導をはじめとする、基本的な生活習慣の確立、交通安全指導などに関して力を入れていることが理解されている。 ・いじめや差別を許さない姿勢が理解されている。 ・個々の人権に配慮した生徒指導が求められている。 ・交通安全運動、MS リーダーズ活動の更なる活動を進める必要がある。 ・学校 HP や教育相談便り等を活用して広報活動の推進に努める。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>人権感覚、人間力（自立力・共生力・自己実現力）の育成</p> <p>①文武両道</p> <p>②挨拶と身だしなみ指導</p> <p>③掃除と整理整頓</p> <p>④時間厳守と切り替え</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部が中心になり、全職員の共通理解のもと指導を行う。 ・全職員で各クラス、授業、部活動などそれぞれの場で指導を行う。 ・学校生活の中での悩みなどを相談できる相手や場所を提供する。 	

6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> ①文武両道を実践する。 ②基本的な生活習慣の確立を図る。 ②交通ルール・マナーの遵守を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②学業と部活動との両立、挨拶、身だしなみ、時間厳守、環境整備について、生徒及び保護者アンケートで評価する。 ③交通事故の件数 年間15件以下。 	

8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で例年のような全職員での登校指導はできなかったものの、毎朝の管理職、職員、生徒指導部による登校指導（健康チェック）を始め、日常生活での全職員による挨拶、声掛け、また、具体的な生活目標や連絡文書配布により各クラスにて指導・声掛けを実施した。 ・今年度より始まった「いじめアンケート」「心のアンケート」、教育相談週間、学年会議、職員会議での情報共有等により生徒の人間関係のトラブルに対応した。 ・交通安全の啓蒙のため交通講話を、コロナ禍のためオンラインで実施した。また、交通安全に係る具体的な連絡文書を配布し各クラスにて指導を実施した。交通マナーについては、MS リーダーズ、職員が指導を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が共通理解のもと、足並みを揃えた取組ができたか。 ・各種アンケート調査、諸会議から得られた情報により対応策が検討され、迷惑行為の改善が見られたか。 ・交通事故件数が減少したか。 	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p><input type="checkbox"/> A B C D</p> <p>A B <input checked="" type="checkbox"/> D</p>

11 成果 ・ 課題	<p>○生徒のアンケート結果から（あてはまる。または、ややあてはまると答えた%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なモラル・マナーを身につけさせようと努めている。 90.4%(△1.4) ・いじめや差別を許さず、厳しく対応している。 82.9%(△1.9) <p>以上のように学校の指導目標と方法は理解されている。</p> <p>○クラス担任、学年、保健室、教育相談などが組織的な対応をすることにより、不登校生徒などへの対応が即時的に行われている。</p> <p>○生徒の気になる行動や問題行動について、学年会議、職員会議をはじめ各種会議の中で情報の共有、対応が迅速に実施できている。</p> <p>▲服装・身だしなみで指導する機会は少なくなっているが、一部、スカート丈などルール・マナーを守れない生徒がいる。</p> <p>▲学業に関する不安、人間関係に悩む生徒、また、特に SNS が原因となってトラブルになる事案が詳細データはないものの増加している印象がある。</p> <p>▲交通事故は多い状態が続き、自転車運転中の対自動車・自転車事故が多くを占める。</p> <p>事故件数：2016年度 18 件、2017年 20 件、2018年 9 件、2019年 17 件、2020年 19 件、2021年度 17 件、(1月現在：男女比 10:7, 学年比:1年(7), 2年(6), 3年(4))</p> <p>▲「いじめ防止対策推進法」(H25)施行以降、対応が増加している。</p> <p>いじめ認知件数：2021年 10 件(R4.1 現在)</p>	<p>総合評価</p> <p>A B C D</p>
12	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の中で生徒指導（生活指導）をより重要なものと位置づけ、スタッフの育成を行う。 ・身だしなみ指導については、時代背景を考えた上で、その意義を生徒に理解させ、社会通念上認められる指導を実施する。 ・制服については、昨年度より B タイプ（女子用）にスラックスを加え、更に将来的には、LGBTなどに対応する方策として制服そのものの見直しを視野に入れる。 ・交通事故の減少に向けて、講話をはじめ、日常的な各クラスでの声掛け（生徒指導部からの周知文書による）、交通安全啓蒙活動（MS リーダーズを中心とした街頭活動など）など交通指導をより充実していく。 ・SNS が原因となる人間関係のトラブルを防止すべく、情報モラルに関する啓発指導（講演等）や、日常的な各所での指導・声かけを更に充実させる。 ・「いじめ」の定義を全職員が理解し、共通理解の下、学校が組織的に対応する意識を持ち実践する。 ・教育相談体制の拡充を図る。（人員の増員、職員研修などによって更に充実したものにする。） 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月4日

【意見・要望・評価等】

- ・徳育(挨拶、身だしなみ、時間厳守、環境整備等)について、生徒アンケート及び保護者アンケートで評価しているが、客観的に評価されたい。
- ・学業に関する不安、人間関係、SNS 関連事案等、コロナ感染症拡大の影響もあり、心身へ支障をきたす懸念が高まり、一層の注視が求められている。
- ・コロナ禍で対応が大変かと推察される。先生と生徒、生徒同士でしっかりとコミュニケーションが取れるとよい。挨拶や身だしなみについては問題ないかと考える。
- ・社会全体で様々な不安を抱える人が増加しているように感じる。今まで以上に声掛けや相談を充実していただけることを切に願う。更に講演等でも SNS 対策、モラルに関する取り組みを更に充実する必要があるのではないか。